

ゆきききのみち

日本古神
道研究会

皇紀二六六三年 一月 七日 新春対談より

新年の扉開き

あけましておめでとうございます。

皆様は新年をどのようにお迎えになられましたでしょうか？

アツと言う間に一年が過ぎてしまい、年末ぎりぎりまであわただしさの中で過ごしていても、お正月を迎えますと空気まで昨日と変わった様な清々しい気持ちになります。昨日も今日も普段の一日と変わらないはずなのに不思議ですね。

それは、単に工場の煙が少なくなり、自動車の排気ガスが少なくなつて、空気が綺麗になつたということではないのです。目には見えないことですが、新たな年に切り替わる時に、神様に「新しい年の扉を開いていただく」からなのです。

こちらでも、毎年午前一時より元旦祭を行いますが、年が変わる霎時ちょうどに「扉開きの神事」を行っています。気のせいではなく、新年には「空気」まで新たなものになっているのです。

これからお話する中には、直接神様がお出ましになられ、語調の異なるところがありますが、大切なところはそのままにさせて頂きましたのでご了承ください。

謹賀新年

本年が皆様にとりまして
よいお年でありますよう
お祈り申し上げます

藤原 大士
藤原 美津子
吉田 洋子

若林 常次
野村 エツコ
貝津 良子
貝津 貴雄
日高 ひさ子
野原 好美
目黒 正彦
宇佐美 輝洋
吉森 英次
井上 智司
藤原 康紘

扉開きにより 巡りが整う

師 「その年の扉開き」といきなり言

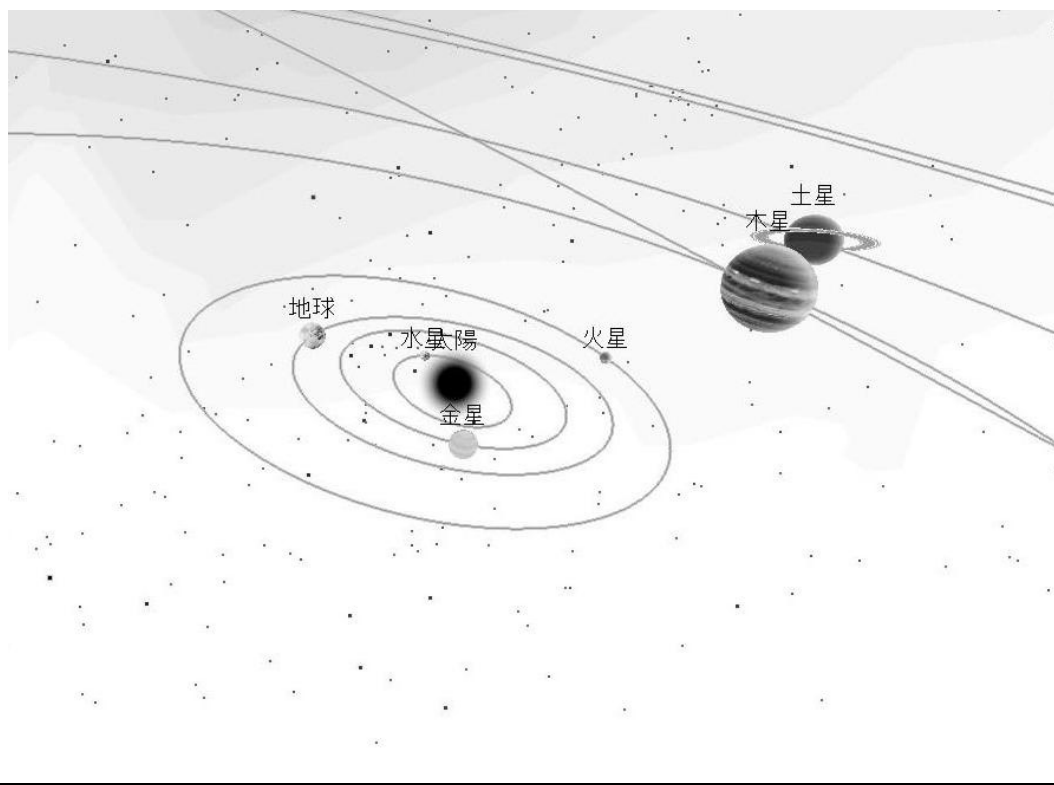
われても、何のことだろうと思われる方も多いと思うのですが、「地球の扉」で言えば、一年の海流・潮流・マントルの動きにはじまって、地球が生成発展し、かつ軌道を外れないように調整していく全てを含んでいゝのです。

そして地球は太陽の周りを自転・公転していますが、その軌道をきちんと回れるようにするといふことは大変なことなのです。皆さんは、太陽は全く動かず、水星・金星・地球・火星・木星等の惑星が、その周囲をきちんと回っていると思われるでしょうが、実際にはそれぞれの惑星の出ず波動によって、太陽もまた揺れているのです。丁度新幹線がすれ違う時に波動を感じることを思い起せば、よく理解出来るのではないのでしょうか。

それだけに、太陽も地球も大宇宙の中にあつては二度と同じめぐりはなく、大いなる変化・大いなる動きを起こしているのです。ただこれは余りにも大き過ぎて、動いていることにさえ気がつかないのです。

一口に扉と言いましても、日本の扉もあれば地球の扉もあり、太陽系の扉もあれば銀河系の扉もあるし、更には銀河群・銀河団等の扉もあつて、最終的には高天原の扉に達するのです。

そして「日本の扉」とは、皇室を中心とした一年のめぐり、春夏秋冬としての四季のめぐり、この間釣り合わせをおろそかにい



たしているゆえ、季節が狂い人としての基本が狂うのじゃ。

人は動物とは厳然と異なる。動物の中にも群れをなし、ボスを中心とした営みをなしているものもある。しかし、それは種族保存のため、力強きものがその中心に座り、外敵などから身を守る事が主となる。

しかるに人は力のみの評価ではあるまい。一つには「徳」であり、「慧眼(物事をよく見抜くすぐれた眼力、鋭い洞察力の意味)」である。さらに奥には神に通じていることが必須となる。

今までの歴史を見てもわかるであろう。一国の長たる者が判断を誤れば、それはそのまま国の滅亡(廢退)に繋がる。しかし、国の存亡をかける時、企業の進退を決める時、家の大事を担う時にはいくつもの要素が絡み、その判断を下すに人知では計り知れぬものぞ。

複雑に絡む要素は、行いし本人ですら予想もつかぬ動きをなすことがあり、それが時として大局を決める怖さは、上に立つ者ならばみな体験しているであろう。

その判断、正確ならしめる為には人の知識ではないのだ。

人は目の前の打ち寄せる波を見て一喜一憂致すが、海には満ち潮・引き潮があり、海流・潮流がある。さらにそうした海のめぐりを起こすマントル(マグマの動き)があり、そのマグマに力を加える大宇宙の力が厳然と存在するのだ。

一国の首相は、また企業の長は、こうした力のもとに繋がり、運営して行かねばならぬ。

繁栄の軌道とは、こうした力、それを起こす力の元に繋がり、日々のめぐりに活かしていくことぞ。

師が元旦の午前零時に開く扉は、先程師が申しておった総ての扉ぞ。そして人の世界においての正月になすべきことは、やはり前年一年の礼を申し、新しき年の事を宜敷く申すことじゃ。人の世界においても、新年の年始の挨拶とはそうしたものである。全て神の世界においてのことを神の子たる人が真似て行いし事ぞ。

その『真似び』が『学び』ではないか。年始の挨拶に願い事など致すか。その為に願い事については二月中に『祈年祭』を設けておるのじゃ。祈願はそこに於いて行え。

また、わが国は昔から『言霊の幸ふ国』と言われており、中心たる人の年頭の辞がいかに大事かということぞ。

各企業では、社長の年頭の挨拶が大切です。社長がその会社の発展を願って訓辞を述べると、一年間繁栄の軌道に乗ることが出来るようになります。ただ、繁栄の軌道に乗ると言われますと、何もしなくても繁栄していくのだと油断をしないでほしいですね。これでは世に言う神頼みであり、他力本願です。

正しく軌道に 沿ってこそ巡る

地球の中でも、雨の日もあれば曇りの日もあります。地震や台風、火山の爆発などで大揺れに揺れる